

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471000487	事業の開始年月日	平成13年8月1日
		指定年月日	令和2年8月1日
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所		
事業所名	スカイホーム湘南		
所在地	(240-0051) 横浜市戸塚区名瀬町36-4 KMプラザ4・5階		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年8月27日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づきご入居者一人ひとりの人格を尊重する介護を心がけ、朝礼等で職員全員に細かく伝えている。参加していない職員には、申し送りノートを読みサインをするように徹底している。ビルの4・5階部分に位置している為、交流が難しい場面もあるが、散歩の時、近隣の方々と触れ合い、また、運営推進会議を通じて地域の理解を得るように努めている。家庭に近い生活を支援し、食事は手作り、旬の食材を取り入れ工夫している。誕生日会・地域のイベント・外食・季節に応じた行事に力を入れている。しかしコロナウイルスの関係で自粛があるために、外食・家族・地域を含めた行事は出来なく、宅配での昼食会・お誕生日会等その他ホームで行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年10月9日	評価機関 評価決定日	令和2年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR・横浜市営地下鉄ブルーライン「戸塚」駅東口からバスで十数分の「富士橋」バス停そばにあります。運営法人所有の5階建てビルの4、5階を使用しています。生活圏が大きく変わらない入居者が多く、散歩の時には知り合いと挨拶を交わしています。

<優れている点>

事業所理念にある「(入居者の) 明るく元気で快適な生活」の支援のため取り組んでいます。毎月のスタッフ会議のほか、カンファレンスも毎月開催し、全入居者の状況を丁寧に話し合っています。例えば、本人が発した言葉であってもそれだけで判断せず、さらに職員間で話し合い思いを探っています。入浴拒否がある場合は、誘導の成功例をスタッフ会議の場や申し送りノートで共有し、スムーズな支援につなげています。また、新型コロナウイルス拡大後は控えている部分もありますが、地域との関係性も良好で、夏祭り、餅つき、起震車体験など地域行事やいきいきサロンへの積極的な参加のほか、事業所のイベントに地域の人々を招待しています。中学生の職業体験、傾聴ボランティア、子どもバレーを通じた交流も活発です。

<工夫点>

食事は手作りにこだわっています。その他本人の希望を聞いて蕎麦や寿司の宅配も楽しんでいます。また、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、飛沫防止のため食堂のテーブル上に透明のプレートで個々に仕切りを立てたり、玄関には透明のビニールシートを下げたりするなどの工夫をし、感染防止対策に注力しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スカイホーム湘南
ユニット名	あおい 4階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関やリビングに理念を掲示し、日々職員同士で意識するようにしている。毎日の朝礼でも気にかけて対応するように声掛けをしている。	開設時に掲げた事業所理念を変わらずに継続しています。「明るく元気で快適な生活」について管理者の思いを伝えていきます。玄関やリビングといった目につく場所への掲示のほか、スタッフ会議で理念に沿った話し合いをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、地域の行事に参加させて頂いている。防災・消防訓練も行い、ともに助け合えるようにしている。ボランティアの方も気軽に参加できるように声かけを心かけている。しかしコロナウイルスの関係で現状交流は避けている。	新型コロナウイルス拡大後は控えていますが、夏祭り、餅つき、起震車体験など地域行事への積極的な参加のほか、事業所のイベントに地域の人々を招待しています。中学生の職業体験、傾聴ボランティア、子どもバレーを通じた交流も活発です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の中学校の職業体験を受け入れ、車いすを体験したり、お年寄りと一緒に過ごして頂く事で、認知症の理解に繋げている。しかしコロナウイルスの関係で職業体験も中止の連絡が入っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開催し2か月に1回・年6回開催し、その都度現状を伝え、参加者からの質疑応答を今後反映出来る様にしている。ご家族・ご入居者にも参加していただいている。毎月のおたよりでも参加を呼び掛けている。コロナの関係で今年度は開催出来ない。	運営推進会議は事業所の運営状況・事故・行事などの報告後、意見交換、質疑応答を行い、介護サポートロボット、他地域のカフェの取組みなど出席者から情報を得ています。今年度は、書面送付での会議形態となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活支援課・高齢障害支援課に出向いたり、電話連絡をしてグループホームの実情や現在の状態を相談し、連携を取り協力をして頂いている。	戸塚区の高齢・障害支援課に運営推進会議の議事録を毎回送付し、事業所の取組みを伝えていきます。入居者の担当ケースワーカーの定期的な訪問のほか、随時の電話連絡による報告や相談などで連携し、入居者を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束について3か月に1回全体研修を行っている。身体拘束委員会を発足している為、毎月のカンファレンスで話し合い啓発に努めている。また、職員一人一人も理解している。玄関の施錠は行っていない。やむおえず拘束を行う場合はその都度話し合いをし、家族への承諾書も頂いている。	身体拘束廃止委員会はユニットごとに開催しています。その他毎月のカンファレンスのほか、3ヶ月ごとに内部研修を行い身体拘束をしないケアについて意識や理解を深めています。スピーチロックに特化した研修も実施しています。ユニット玄関の施錠はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホームで虐待について研修を行い理解を深めている。職員間で虐待と気付いた時は、その都度注意し解決に向けて話し合いを持ち、管理者に報告し解決している。また、虐待の事例も学ぶ機会をとり、気付くことが多くなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が外部の研修を自主的に受けたり、実際に後見人と接してその都度、役割を見て身近な存在と思うようになってきている。また、理解も深めている。全体では研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しての締結は、ご家族・ご入居者に運営規定の概要・重要事項を記載した文章を交付し同意を得ている。その都度分からない事に対し、相談に応じ説明し、理解を得られるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が訪問された時また、電話連絡をし困っている事等、問題点について話をし相互理解に努めている。ミーティングを通して、全職員へ伝え理解をしてもらっている。事業所以外でも役所や地域包括センター等、苦情意見を伝えられる所がある事を説明している	面会、電話連絡、運営推進会議、家族会など家族から意見要望を聞く機会を設けています。家族から、職員の不適切と思える言葉遣い、対応について意見が出たことを踏まえ、全職員で共有し改善に努めています。	スタッフ会議での話し合い、接遇研修、管理者の指導など改善に努めています。今後も継続が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は朝礼、スタッフ会議や日頃の業務の中で職員の意見や提案を聞き、運営の向上に反映させている。個人面談を行い、職員の思いや要望を聴くことで相互の共通理解に努めていることで意見や提案が出やすい環境になっている。	管理者は職員個人面談のほか、積極的に現場に入り職員とのコミュニケーションを密に図っています。職員の意見・提案からフロア床の不具合改修、職員シフト時間の変更による業務改善など、本社と連携を図りながら取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の環境の整備に努め、管理者は職場での一人一人の家庭の状況を汲み取りその人に合わせ負担の無い最も良い労働時間や環境などを提案している。また、就業規則はいつでも閲覧出来るような場所に置いてある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修のお知らせを配り、希望すれば研修に参加出来るようにすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会には忙しく行けていない。又、コロナウイルスの関連で勉強会等の集まりには出席できない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所される方の所へ出向き、生活の様子や心情を汲み取り、言葉にならない気持ちを受け止め安心して頂けるようにアセスメントをしっかりと行っている。また気づきがあった場合等、すぐに職員間で情報共有し記録に残し安心して暮らせるように良い環境をさぐる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が求めている物を理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労やいままでのサービスの利用状況等、なぜこのホームを望んで来たのかを把握する為にご家族の気持ちに寄り添えるように努力する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご本人ご家族それぞれの要望を把握し一定期間細かく個人記録に落とす。そして、職員の多角的視点で観察していく。継続できそうか他の良い方法があるか等職員間で話し合いをしている。その結果何が必要かの判断をし、ケアに結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する者、される者に分けず、双方向の関係が保てるように心がけている。料理・洗濯・掃除・手作業等の技術や作法・所作・考え方・経験等職員はご入居者から学び、共に活動し日常生活を過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム便りや行事の楽しそうな写真を送り様子を報告し、ご家族と共有している。生活するうえで必要な物があれば購入し届けてもらう等している。ご本人の様子を伝えることにより、支えていくための協力関係がきずけることが多くなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域に暮らす馴染みの知人や知り合いなどが多くいる為に、散歩に出ると声をかけられたりすることで支援出来、交流も深まっている。しかし、コロナウイルスの関係で外出できないが、窓から外を眺めて、昔の話をすることの出来る環境もある。	生活圏が大きく変わらない入居者が多く、散歩の時には知り合いと挨拶を交わしています。美容院、スーパーマーケットなど行きつけの店との馴染みの関係も大切にしています。地域のいきいきサロンに通うことも継続できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がご入居者の様子をみてその時その場ですぐに良好な関係が保てるように配慮している。月に何度か他のユニットとの交流を深めるようにしたり、トラブルがあった場合なども、すぐに職員が間に入りご入居者同士の繋がりが切れないうちに支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後、他の施設へ訪問し、穏やかな生活が出来る様に協力している。退去された方のご家族も顔を出してくれ様子をお話して下さる。いつでもご家族の相談には親身に受けられるような体制は取っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。把握困難な場合もご本人は、どうしたいのか何を望んでいるのかを考え、ご本人より発した言葉だけで判断せず、職員間でカンファレンスし希望に沿えるように努めている。	入浴でゆったりとした関わりの時に本人の本音がこぼれることがあります。言葉でのコミュニケーションが難しい場合は本人が選択できる言葉かけや表情を読み取るようにしています。さらに毎月のカンファレンスでも思いを探っていきます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居以前の情報・生活歴などを管理者ケアマネジャーと連携し支援している。ご本人のためにケアが活かせるように努め、プライバシー保護へ配慮を忘れないようにしている。又、ご本人との会話の中からお聞きし知りえる情報も多くあるため役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの暮らし方や生活のリズムを把握していき、職員と一緒に生活する中で、心理面に視点を置き、出来る事を見つけその方の全体像の把握に努めている。特に疲れた時などは、すぐに休めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	その都度ご本人やご家族に意見や要望をお聞きし、プランに反映出来るようにしている。又、医師・看護師・薬剤師などのアドバイスを得て、月に1度ケアカンファレンスを職員全員で行い、変化があった場合は、すぐに話し合いをし介護計画に役立てている。	ケアプランは6ヶ月で作成し、入居者・家族の希望や状況に基づいて3ヶ月の目標を設定しています。毎月のカンファレンスで全利用者の様子を話し合い、モニタリングをしており、変化があれば都度プランを変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に一日の生活状況や発言、職員の対応など細かく記録している。いつもと違う事があればすぐに、職員間で共有することで、その方のニーズを理解して介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人ご家族の要望に沿える様にしている。通院や送迎など基本的にご家族対応、日中や夜間救急搬送の場合等家族が間に合わない時、管理者が同行する事も多々ある。また、望む方にはリハビリマッサージを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のお祭り・いきいきサロン参加・地域ケアプラザイベント・近隣マンションイベント・近隣中学校職業体験の受け入れ・2か月に1回の理美容も行っている。その事によりご入居者はいきいきとした生活をしている。しかしコロナウイルスでの自粛がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の同意を得て24時間居宅療養診療医に委託している。家族が医療に不安があれば、医師に尋ねられるような態勢を取っている。かかりつけ医を中心に複数の医療機関と関係を密に結んでいる。月2の往診だが、急変時にはすぐに往診に出向いて下さる。	入居時より事業所のかかりつけ医を主治医とし、往診時は事業所の看護師や薬局の薬剤師も同席するなど密な連携に努めています。家族等の付き添いによる他の医療機関への通院時は、事業所と速やかに検査結果や処方箋の情報共有を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間の医療連携で、週2日間の勤務日頃の健康管理や医療面での相談助言対応を行っている。職員は体調や些細な表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。変化等に気付いた事があれば適切に医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に主治医からの情報提供書・介護サマリーを送り、適切な治療が出来るように連携している。入院途中には家族と連絡し合い、ソーシャルワーカーと連絡を取り、退院時にはホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化に伴う意思確認書の指針の説明同意を得ている。必要が生じた場合、ご家族・医師・看護師・薬剤師・職員で話し合いをし、終末期であるお看取りの話をし同意して頂く。その後署名捺印を頂いている。職員一同でチーム一丸で支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針説明と同意は入居時や本人の状態変化に応じて行っています。看取り、入院、蘇生措置等について家族が納得のいく結論を出せるまで医師などを交えて繰り返し話し合っています。職員には研修や看取り後の振り返りで教育や心のケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が定期的に年1～2回のAEDや心肺蘇生の訓練を受けている。又、夜間帯の緊急時対応について、マニュアルを整備し職員に話をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力で防災訓練を行っている。運営推進会議では地域の方と協力体制を築き、避難場所・備蓄・照明等の確認を定期的に行っている。水害時は建物が高い為に避難はせずにホームにいる。避難場所は近くの小学校である。	町内会の防災訓練の参加などにより地域との協力関係を築いています。備蓄リストを整備し、居室ごとに水を備蓄したり、非常食の定期的更新に努めています。停電を契機に、廊下の足元やトイレに新たに非常灯を設置するなど、設備面でも災害に備えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者一人一人の人格を尊重した支援に努め、声かけや誘導するときは周りの状況に配慮し無理強いをしないよう支援を行っている。排泄や入浴時等にはプライバシーが守れるように職員全員が注意して対応にあたりご入居者の尊厳を保てるように努力している。	プライバシーに配慮し、入浴時の着脱時はカーテンで仕切り、入浴は一人ずつ行っています。排泄誘導時の声掛けや方法にも留意しています。呼称は「さん」づけのほか、本人・家族の希望を尊重しています。スタッフ会議では接遇やマナー研修も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護者は、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり些細な事でも本人が決定出来るような場面をつくっている。また、要望や不満を話やすいように常にご入居者とのコミュニケーションを取れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調に配慮し、本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごして頂いている入浴拒否がある方に対しては入浴を無理に誘導してしまう事も稀にある。外出や買い物等は個別に対応に努めて満足して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の生活習慣に合わせ、行事の時はお化粧品やおしゃれな洋服等を着て楽しんでいただけるように支援を心がけている。ご本人のこだわりや、身だしなみも把握しその人らしさが保てるようなお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れた食事をご入居者と一緒に盛り付け、片付け等を行って頂いている。職員はご入居者がきちんと食べているのかの把握もしている。また、食事が楽しくできるようにCDをかけゆったりとした気持ちで良い雰囲気づくりも大切にしている。	食材の宅配で、手作りの食事を提供しています。ペースト・とろみ、極刻み、おかゆ等、一人ひとりに配慮した形態とし、盛り付けにも留意しています。コロナ禍にあっても月1回は宅配にてファミリーレストランや寿司屋などの希望のメニューを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮し一人一人の摂取量の残量から大まかに確認する。栄養面を補うために、高カロリー補助食品をも取り入れている。食事量・水分量は毎回摂取した時に記録に残し把握し量が少ない方は、色々な品を替えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。一人ではできない方は、スポンジ等を使用して介助している。夜には義歯を預かり消毒もしている。定期受診の他にも、口臭がしたり口腔内の義歯不具合があれば、提携の歯科医に連絡し治療している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。自尊心に配慮し、トイレでの排泄も大切にしている。落ち着かずトイレの往復が頻回な方は、居室にPトイレを置き、こまめに見回り綺麗に掃除をしている。排泄表作成も記録している。	排泄チェック表を用い、個々に応じた声掛けや誘導のタイミングを把握し支援を行っています。夜間は睡眠の質の確保を最優先とした支援を行っています。一人ひとりにオムツ、パット、リハビリパンツなど最適な方法を状況に応じて使い分ける工夫もしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便確認を行い申し送りをしている。自然排便が出来る様、水分摂取・体操・腹部マッサージ・散歩をし予防している。主治医・ナースと常に相談をしながらコントロールしている。又、オリゴ糖・蜂蜜・乳製品・食物繊維の多い食品も心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調に合わせて入浴の管理をしている。清潔保持の為状態に合わせて随時方法を選択し、入浴拒否が多い方は声掛け等も工夫している。又、午前・午後といつでも入浴出来る様対応。一人でゆっくりと入浴して頂き、職員と会話をしながら入浴して頂いている。	一人ずつの入浴時間により、職員と1対1で会話を楽しんだり、職員が入居者の不満や希望に耳を傾ける機会ともなっています。入浴の拒否がある人については誘導の成功例をスタッフ会議の場や申し送りノートで共有しスムーズな支援につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。個人の状態を把握し、必要な休息や睡眠がとれる様に支援している。夕方からは安心した時間の過ごし方を取り組み、就寝に向けて安定するように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師・看護師・薬剤師の協力を得て適切な服薬援助が出来る様に情報共有を行っている。薬の目的や使用方法を把握出来るよう、薬の説明書をファイリングしている。服薬時には誤薬防止の為、3名の職員で確認をしてから、服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で発揮出来る様にケアプラン内に織り込まれている。お願い出来る様な仕事を頼む。清掃・食事の手伝い・洗い物・洗濯干し等をして頂いた時は感謝の意を伝え、編物・縫物・歌・塗り絵・パズル・漢字等を一緒に楽しみながらやって頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの要望に沿って散歩・買物にお連れしている。ご家族にも協力して頂き、戸外に出ることを積極的に行っている。ユニットごとに外出をし、お弁当を持って出かけ楽しんでいただいている。現在はコロナウイルスの関係で出来ない。	コロナ禍以前は、近隣の散歩やコンビニへの買い物のほか、誕生日の入居者に希望を聞き、月1回ユニットごとに蕎麦屋、ラーメン屋、ファミレス等で外食を楽しんでいました。フラワーセンターへの外出では現地集会で家族とおち合い、交流を楽しんでいました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事業所で保管し管理している。ご入居者が使用したいと要望があれば、いつでも使用できるようになっている。又、ご家族の了解のもと、ご本人が所持したいと望む時は、ご本人に管理をして頂く事も稀にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来る様にしている。話を理解できない時や、伝わらない時は職員がその気持ちをお伝えして、ご家族とご本人の橋渡しをしている。字が書けない方は、職員が代筆をする事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに共有スペースの装飾を変え季節間を取り入れている。又、外出時や行事の写真を貼り楽しい雰囲気作りをしている。TPOに合わせてたり、お好きな音楽をかけてくつろいで頂いたり、テーブル配置・席替えも取り入れ気分転換を図っている。	職員や入居者の手作りの装飾で共用空間に季節の彩りを添えています。床の張替え工事も終わりました。コロナ禍以降は、飛沫防止のため食堂のテーブル上に透明のプレートで個々に仕切りを立てたり、玄関には透明のビニールシートを下げるなどの工夫をし感染防止対策に注力しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関・廊下に椅子を置き、居間にはソファ・壁には写真や季節の花・動物の写真等で装飾し居心地の良い空間を作っている。一人で居室で過ごす時間や仲の良いご入居者同士がくつろげるスペースも作ってある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者には馴染みのある家具や生活用品を持参して頂き、落ち着いた好みの空間作ることをご家族と一緒にして頂いている。写真や絵を飾り趣味に合わせた部屋作り、また、職員と相談しながら暖かい居室作りを工夫している。	居室には使い慣れたタンスや時計、テレビ、小物を入居者が持ち込み、思い思いに好みのレイアウトで居室に配置しています。居室で本を読むなど、一人で過ごしたい人も居心地よく過ごせるように、職員は適切な距離を保つなど関わりの面でも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを追求し、状況に合わせた環境整備に努めている。トイレへの空間表示を床に矢印を貼り、自立した生活が送れるように工夫している。		

事業所名	スカイホーム湘南
ユニット名	はづき 5階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関やリビングに理念を掲示し、日々職員同士で意識するようにしている。毎日の朝礼でも気にかけて対応するように声掛けをししている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、地域の行事に参加させて頂いている。防災・消防訓練も行い、ともに助け合えるようにしている。ボランティアの方も気軽に参加できるように声かけを心かけている。しかしコロナウイルスの関係で現状交流は避けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の中学校の職業体験を受け入れ、車いすを体験したり、お年寄りと一緒に過ごして頂く事で、認知症の理解に繋げている。しかしコロナウイルスの関係で職業体験も中止の連絡が入っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開催し2か月に1回・年6回開催し、その都度現状を伝え、参加者からの質疑応答を今後にも反映出来る様にしている。ご家族・ご入居者にも参加していただいている。毎月のおたよりでも参加を呼び掛けている。コロナの関係で今年度は開催出来ない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活支援課・高齢障害支援課に出向いたり、電話連絡をしてグループホームの実情や現在の状態を相談し、連携を取り協力をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束について3か月に1回全体研修を行っている。身体拘束委員会を発足している為、毎月のカンファレンスで話し合い啓発に努めている。また、職員一人一人も理解している。玄関の施錠は行っていない。やむおえず拘束を行う場合はその都度話し合いをし、家族への承諾書も頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホームで虐待について研修を行い理解を深めている。職員間で虐待と気付いた時は、その都度注意し解決に向けて話し合いを持ち、管理者に報告し解決している。また、虐待の事例も学ぶ機会をとり、気付くことが多くなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が外部の研修を自主的に受けたり、実際に後見人と接してその都度、役割を見て身近な存在と思うようになってきている。また、理解も深めている。全体では研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しての締結は、ご家族・ご入居者に運営規定の概要・重要事項を記載した文章を交付し同意を得ている。その都度分からない事に対し、相談に応じ説明し、理解を得られるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が訪問された時また、電話連絡をし困っている事等、問題点について話をし相互理解に努めている。ミーティングを通して、全職員へ伝え理解をしてもらっている。事業所以外でも役所や地域包括センター等、苦情意見を伝えられる所がある事を説明している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は朝礼、スタッフ会議や日頃の業務の中で職員の意見や提案を聞き、運営の向上に反映させている。個人面談を行い、職員の思いや要望を聴くことで相互の共通理解に努めていることで意見や提案が出やすい環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の環境の整備に努め、管理者は職場での一人一人の家庭の状況を汲み取りその人に合わせ負担の無い最も良い労働時間や環境などを提案している。また、就業規則はいつでも閲覧出来るような場所に置いてある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修のお知らせを配り、希望すれば研修に参加出来るようにすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会には忙しく行けていない。又、コロナウイルスの関連で勉強会等の集まりには出席できない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所される方の所へ出向き、生活の様子や心情を汲み取り、言葉にならない気持ちを受け止め安心して頂けるようにアセスメントをしっかりと行っている。また気づきがあった場合等、すぐに職員間で情報共有し記録に残し安心して暮らせるように良い環境をさぐる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が求めている物を理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労やいままでのサービスの利用状況等、なぜこのホームを望んで来たのかを把握する為にご家族の気持ちに寄り添えるように努力する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご本人ご家族それぞれの要望を把握し一定期間細かく個人記録に落とす。そして、職員の多角的視点で観察していく。継続できそうか他の良い方法があるか等職員間で話し合いをしている。その結果何が必要かの判断をし、ケアに結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する者、される者に分けず、双方向の関係が保てるように心がけている。料理・洗濯・掃除・手作業等の技術や作法・所作・考え方・経験等職員はご入居者から学び、共に活動し日常生活を過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム便りや行事の楽しそうな写真を送り様子を報告し、ご家族と共有している。生活するうえで必要な物があれば購入し届けてもらう等している。ご本人の様子を伝えることにより、支えていくための協力関係がきずけることが多くなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域に暮らす馴染みの知人や知り合いなどが多くいる為に、散歩に出ると声をかけられたりすることで支援出来、交流も深まっている。しかし、コロナウイルスの関係で外出できないが、窓から外を眺めて、昔のことを語ることの出来る環境もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がご入居者の様子をみてその時その場ですぐに良好な関係が保てるように配慮している。月に何度か他のユニットとの交流を深めるようにしたり、トラブルがあった場合なども、すぐに職員が間に入りご入居者同士の繋がりが切れないために支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後、他の施設へ訪問し、穏やかな生活が出来る様に協力している。退去された方のご家族も顔を出してくれ様子をお話しして下さる。いつでもご家族の相談には親身に受けられるような体制は取っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。把握困難な場合もご本人は、どうしたいのか何を望んでいるのかを考え、ご本人より発した言葉だけで判断せず、職員間でカンファレンスし希望に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居以前の情報・生活歴などを管理者ケアマネジャーと連携し支援している。ご本人のためにケアが生かせるように努め、プライバシー保護へ配慮を忘れないようにしている。又、ご本人との会話の中からお聞きし知りえる情報も多くあるため役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの暮らし方や生活のリズムを把握していき、職員と一緒に生活する中で、心理面に視点を置き、出来る事を見つけその方の全体像の把握に努めている。特に疲れた時などは、すぐに休めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	その都度ご本人やご家族に意見や要望をお聞きし、プランに反映出来るようにしている。又、医師・看護師・薬剤師などのアドバイスを得て、月に1度ケアカンファレンスを職員全員で行い、変化があった場合は、すぐに話し合いをし介護計画に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に一日の生活状況や発言、職員の対応など細かく記録している。いつもと違う事があればすぐに、職員間で共有することで、その方のニーズを理解して介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人ご家族の要望に沿える様にしている。通院や送迎など基本的にご家族対応、日中や夜間救急搬送の場合等家族が間に合わない時、管理者が同行する事も多々ある。また、望む方にはリハビリマッサージを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のお祭り・いきいきサロン参加・地域ケアイベント・近隣マンションイベント・近隣中学校職業体験の受け入れ・2か月に1回の理美容も行っている。その事によりご入居者はいきいきとした生活をしている。しかいコロナウイルスでの自粛がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の同意を得て24時間居宅療養診療医に委託している。家族が医療に不安があれば、医師に尋ねられるような態勢を取っている。かかりつけ医を中心に複数の医療機関と関係を密に結んでいる。月2の往診だが、急変時にはすぐに往診に出向いて下さる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間の医療連携で、週2日間の勤務日頃の健康管理や医療面での相談助言対応を行っている。職員は体調や些細な表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。変化等に気付いた事があれば適切に医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に主治医からの情報提供書・介護サマリーを送り、適切な治療が出来るように連携している。入院途中には家族と連絡し合い、ソーシャルワーカーと連絡を取り、退院時にはホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化に伴う意思確認書の指針の説明同意を得ている。必要が生じた場合、ご家族・医師・看護師・薬剤師・職員で話し合いをし、終末期であるお看取りの話をし同意して頂く。その後署名捺印を頂いている。職員一同でチーム一丸で支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が定期的に年1~2回のAEDや心肺蘇生の訓練を受けている。又、夜間帯の緊急時対応について、マニュアルを整備し職員に話している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力で防災訓練を行っている。運営推進会議では地域の方と協力体制を築き、避難場所・備蓄・照明等の確認を定期的に行っている。水害時は建物が高い為に避難はせずにホームにいる。避難場所は近くの小学校である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者一人一人の人格を尊重した支援に努め、声かけや誘導するときは周りの状況に配慮し無理強いをしないよう支援を行っている。排泄や入浴時等にはプライバシーが守れるように職員全員が注意して対応にあたりご入居者の尊厳を保てるように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護者は、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり些細な事でも本人が決定出来るような場面をつくっている。また、要望や不満を話やすいように常にご入居者とのコミュニケーションを取れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調に配慮し、本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごして頂いている入浴拒否がある方に対しては入浴を無理に誘導してしまう事も稀にある。外出や買い物等は個別に対応に努めて満足して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の生活習慣に合わせ、行事の時はお化粧品やおしゃれな洋服等を着て楽しんでいただけるように支援を心がけている。ご本人のこだわりや、身だしなみも把握しその人らしさが保てるようなお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の食材を取り入れた食事をご入居者と一緒に盛り付け、片付け等を行って頂いている。職員はご入居者がきちんと食べているのかの把握もしている。また、食事が楽しくできるようにCDをかけゆったりとした気持ちで良い雰囲気づくりも大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮し一人一人の摂取量の残量から大まかに確認する。栄養面を補うために、高カロリー補助食品も取り入れている。食事量・水分量は毎回摂取した時に記録に残し把握し量が少ない方は、色々な品を替えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。一人ではできない方は、スポンジ等を使用して介助している。夜には義歯を預かり消毒もしている。定期受診の他にも、口臭がしたり口腔内の義歯不具合があれば、提携の歯科医に連絡し治療している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。自尊心に配慮し、トイレでの排泄も大切にしている。落ち着かずトイレの往復が頻回な方は、居室にPトイレを置き、こまめに見回り綺麗に掃除をしている。排泄表作成も記録している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便確認を行い申し送りをしている。自然排便が出来る様、水分摂取・体操・腹部マッサージ・散歩をし予防している。主治医・ナースと常に相談をしながらコントロールしている。又、オリゴ糖・蜂蜜・乳製品・食物繊維の多い食品も心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調に合わせて入浴の管理をしている。清潔保持の為状態に合わせて随時方法を選択し、入浴拒否が多い方は声掛け等も工夫している。又、午前・午後といつでも入浴出来る様対応。一人でゆっくりと入浴して頂き、職員と会話をしながら入って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。個人の状態を把握し、必要な休息や睡眠がとれる様に支援している。夕方からは安心した時間の過ごし方を取り組み、就寝に向けて安定するように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師・看護師・薬剤師の協力を得て適切な服薬援助が出来る様に情報共有を行っている。薬の目的や使用方法を把握出来るよう、薬の説明書をファイリングしている。服薬時には誤薬防止の為、3名の職員で確認をしてから、服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で発揮出来る様にケアプラン内に織り込まれている。お願い出来る様な仕事を頼む。清掃・食事の手伝い・洗い物・洗濯干し等をして頂いた時は感謝の意を伝え、編物・縫物・歌・塗り絵・パズル・漢字等を一緒に楽しみながらやって頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの要望に沿って散歩・買物にお連れしている。ご家族にも協力して頂き、戸外に出ることを積極的に行っている。ユニットごとに外出をし、お弁当を持って出かけ楽しんでいただいている。現在はコロナウイルスの関係で出来ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事業所で保管し管理している。ご入居者が使用したいと要望があれば、いつでも使用できるようになっている。又、ご家族の了解のもと、ご本人が所持したいと望む時は、ご本人に管理をして頂く事も稀にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来る様にしている。話を理解できない時や、伝わらない時は職員がその気持ちをお伝えして、ご家族とご本人の橋渡しをしている。字が書けない方は、職員が代筆をする事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに共有スペースの装飾を変え季節間を取り入れている。又、外出時や行事の写真を貼り楽しい雰囲気作りをしている。TPOに合わせて、好きな音楽をかけてくつろいで頂いたり、テーブル配置・席替えも取り入れ気分転換を図っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関・廊下に椅子を置き、居間にはソファ・壁には写真や季節の花・動物の写真等で装飾し居心地の良い空間を作っている。一人で居室で過ごす時間や仲の良いご入居者同士がくつろげるスペースも作ってある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者には馴染みのある家具や生活用品を持参して頂き、落ち着いた好みの空間作ることをご家族と一緒にして頂いている。写真や絵を飾り趣味に合わせた部屋作り、また、職員と相談しながら暖かい居室作りを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるかを追求し、状況に合わせた環境整備に努めている。トイレへの空間表示を床に矢印を貼り、自立した生活が送れるように工夫している。		

令和2年度

目標達成計画

事業所名スカイホーム グループホーム湘南

作成日： 令和 2 年 12 月 13 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	個人記録に一日の生活状況や発言、職員の対応等細かに記録していると思っていたが、詳しく記入することが不足していたため、ご家族に理解して貰えないことが多くあった。	個人記録をご入居者家族が理解出来る様に記録を付ける	個人の介護記録には、流れを記入するだけではなく、いつもと比べて違う行動や強い言葉を言ったりした時は、裏面に入居者の言葉をそのまま記録しその時の状況をしっかりと記入していく。 ●入居者の言葉 ○職員の言葉に分けて記入をする。	12ヶ月
2	48	コロナ感染症が続く中、ご入居者とどのように生活していくか考える。	コロナ感染症の中、外出が出来なかったり、レクリエーションが限られ、面会制限があったりするが、工夫して何とか活性化を目指す。	歌や体操・紙芝居、個人別の文字合わせ・塗り絵等・・・玄関に机を出し、間仕切り用透明ビニールを吊るし、10分間の面会を出来る様にした。施設からのお便りを出し、面会の周知をしている。	12ヶ月
3	52	コロナ感染症にかからない為に、ご入居者・職員の意識をしっかりと持つ。	皆がコロナ感染をしない様に気を付ける。	職員は自宅で体温を測り体調管理をしてから出勤、出勤して体温測定記録、手洗いうがい除菌をする。ご入居者は手洗いうがい、除菌を食事前には必ずする。室内は食卓手摺、食卓上のパーティション等の除菌（朝・昼・夕）と最低3回はする。換気は都度して行う。帰宅前には、体温計測定記録して退所する。マスク各自着用	12ヶ月